

書籍のご案内

放射線透過試験Ⅱ 2019

編集：(一社)日本非破壊検査協会 編集委員長 篠田邦彦
体裁：B5版, 206頁
発行：平成31年4月15日
定価：本体4,500円+税 (送料別)

非破壊試験技術者の技術の能力及び技量は、JIS Z 2305:2013「非破壊試験技術者の資格及び認証」において、レベル1、レベル2及びレベル3に分類している。そこでは、認証されたレベル2技術者は、NDT手順書に従ってNDTを実施する力量が実証されている。レベル2技術者は、次の項目が実施できる。

- a) 使用するNDT方法に適用するNDT技法を選択する。
- b) NDT方法の適用制限を明確にする。
- c) NDTコード、規格、仕様書及び手順書を、実際の作業条件に適したNDT指示書に書き換える。
- d) 装置の調整及びその検証を行う。
- e) NDTを実施し、監督する。
- f) 適用される規格、コード、仕様書又は手順書に従って結果を解釈し、評価する。
- g) レベル2又はそれより下のレベルの全ての作業を実施し、監督する。
- h) レベル2又はそれより下のレベルの技術者を指導する。
- i) NDT結果を報告する。

一方、資格及び認証を得るためには適切な教育・訓練及び経験が求められる。

非破壊試験技術者の国際整合化の観点からJIS Z 2305:2001「非破壊試験—技術者の資格及び認証」が制定された。また、2012年にISO規格とEN規格との統一が図られ、JIS Z 2305はISO 9712:2012をもとに2013年に改正されて現在に至っている。

そこで、本書の改訂にあたって、教育及び訓練のためには、改正されたJIS Z 2305でも取り上げているISO/TR 25107:2006(訓練用シラバス)に関する訓練要綱を採用して、放射線透過試験技術者レベル2に対応する内容としている。すなわち、放射線透過試験の歴史と用語、物理的原理と関連知識、製品知識と試験方法と適用技術、装置、試験の事前情報、試験、評価と報告、アセスメント、品質

アспект及び開発を主要項目とした訓練用シラバスに基づいた内容にしている。これに、放射線安全管理を加えて、試験技術者が習得しなければならない一連の知識としてまとめている。

本書は、「放射線透過試験Ⅱ」2006年度版が発行されて13年が経過し、今後普及が見込まれるデジタルラジオグラフィ、ラジオスコピー(透視法)などの最近の放射線透過試験技術も従来のフィルムラジオグラフィに含めて全面的に改訂及び編集を行ったものである。

最後に本書がJIS Z 2305に基づく資格試験のための参考書としてはもちろんのこと、非破壊試験・検査に携わる技術者の方々に役立つ、活用されれば幸いである。

(はしがきより抜粋)

以上

